

「新しい旅のスタイル」の実施状況と今後の取組について

「新しい旅のスタイル」については、対象を「同居者（個人も可）との旅行」とし、「圏域内の旅行」及び「宿泊旅行商品」に限定して、利用者・事業者双方のご協力のもと感染拡大防止策を徹底するモデル事業として実施。

これまでの実施状況と今後の取組について、次のとおり取りまとめたので報告する。

1 4月の取組状況

- 感染状況を踏まえ、札幌市を除く5圏域にて事業展開。
- 利用者アンケートの実施（現時点で約3,500通回収済）
- 抜き打ち検査の実施（126件実施済）

2 利用状況

- 市町村独自施策との併用などの要因もあり、利用状況に地域差が生じている。
（一部の施設で初回配分は完売し、追加配分を実施したが、全体の利用は少ない）
- 札幌市内は感染拡大が続いており、事業開始の目処が立っていない。

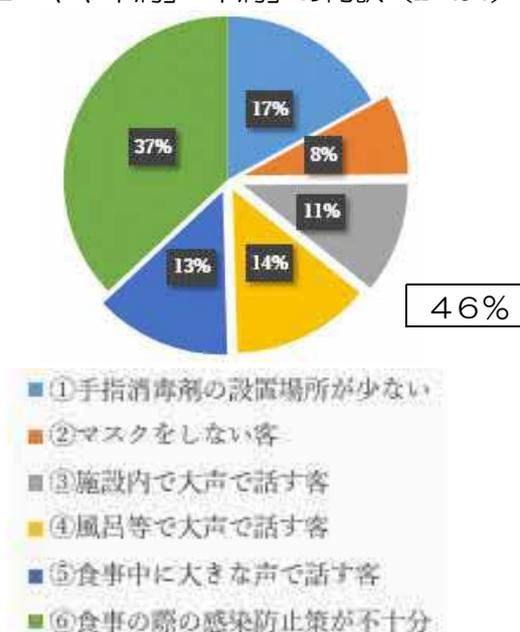
3 利用者アンケートの結果

- 宿泊施設の感染防止対策について、「満足」「やや満足」の割合が97%、「やや不満」「不満」が3%
- 「やや不満」「不満」の理由としては、「マスクをしない客」や「施設内、風呂等で大声で話す客」「食事中に大声で話す客」など、他の利用者の感染防止策への意識徹底を求める意見が46%あった。

■ 宿泊施設の感染防止対策について（n=3,463）



■ 「やや不満」「不満」の内訳（n=454）



4 宿泊施設の検査結果

- 宿泊施設の感染対策は、各施設とも工夫しながら概ねしっかり行っている。
- 事業者からの意見は次のとおり。
 - ・ この取組により、従業員やお客様の感染対策への意識が向上している。
 - ・ 実際のところ「黙食」はなかなか難しい面がある。
 - ・ 圏域解除、札幌市民の利用再開、5月以降の延長をお願いしたい。

5 本事業の中間分析

- 利用者へのアンケートや宿泊施設への検査結果等を踏まえると、宿泊事業者における感染防止対策はしっかりと行われており、利用者の評価も高く、感染意識の向上や感染防止行動の実践にも寄与している。
- 一方で、感染防止策への意識付けが必要な利用者も一部に存在しており、利用者の黙食・黙浴などをさらに徹底させる必要がある。

6 今後の取組

現在の厳しい感染状況を踏まえ、国の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」において、緊急事態宣言等の対象地域では不要不急の都道府県間の移動の自粛が促されるとともに、道では「GW特別対策」として、札幌市との往来自粛を呼びかけている。

しかしながら、こうした措置は強制力を伴うものではなく、ゴールデンウィーク中には道外から多くの旅行者が来道する可能性があり、「黙食・黙浴」などの感染防止対策を遵守しない利用者が増加するおそれもある。また、利用者アンケートにおいても、他の利用者の感染防止対策への意識徹底を求める意見が多かった。

こうしたことを踏まえ、全国的な厳しい感染状況の中、さらなる感染防止対策の徹底、定着を図り、感染症に強い北海道観光のモデルを促進するため、新たな対策を加えた上で、地域の感染状況を踏まえながら、「新しい旅のスタイル」の取組を継続する。

(1) 新たな対策

- ・ 利用者が提出する「同意書」において、「マスク着用」「大声で会話しない」「黙食・黙浴」の項目を強調して示し、注意喚起を行う。
- ・ **事業者の遵守事項**として、要綱第5条第1項第1号に掲げる別表2に次の事項を加える。
 - ① 施設内にて黙食・黙浴などを守らない利用者を発見した場合には、当該者が「新しい旅のスタイル」の利用者であるか否かにかかわらず、**速やかに注意**すること
 - ② 利用者から上記①について通報があった場合には、直ちに状況を確認し、適切な対応を取ること。

(2) 圏域の考え方

- ・ 札幌市については、感染が拡大しており、外出・往来自粛などGW特別対策を実施していることから、引き続き対象外とする。
- ・ 札幌市以外についても、感染が拡大した場合には速やかに対象外とする。
具体的には、外出や往来の自粛要請等を行った地域や、「まん延防止等重点措置」が行われる場合で、営業時間の変更等の措置を講ずる必要があるとして知事が区域を定めるときには、当該区域を含む圏域を対象から除外する。

(3) 実施期間

4月30日（金）チェックイン～5月31日（月）チェックアウト

「新しい旅のスタイル」の今後の取組に対する主な意見

○ 有識者・専門家等の意見

- ・ 感染防止対策を徹底した日常生活の延長線上で旅行を捉え、同様の対策をとっていれば、旅行してもよいと思う。
- ・ 黙食・黙浴は、他のグループへの感染防止が目的であり、同じグループ内で厳しく規制する必要はなく、その点を分かりやすく説明すべき。
- ・ 地域の人自らが地域を守るという視点で、感染対策をとった上で、自分たちの地域内の宿泊施設を積極的に利用することが重要。
- ・ 地域経済の状況は厳しく、感染防止対策だけではなく、経済対策にも目を向けなければいけない局面に来ている。

- ・ 感染の状況から、札幌市をはずすのは仕方ない。
- ・ 札幌市以外の地域は、実施期間の延長は問題ない。
- ・ 通常、札幌から道内各地への旅行が多いから、利用実績が少ないのはやむを得ない。
- ・ 利用者アンケートの「不満」「やや不満」の項目に「他の利用者の態度」があげられているのは感染防止対策への意識が高まっている証拠。
- ・ 「感染拡大防止の対策を取りながら旅行を楽しむ」というこの事業の考え方は、理にかなっている。

- ・ 道外からの観光客にもわかりやすく伝える工夫をしてはどうか。感染防止対策であれば、宿泊施設だけでなく空港や道の駅など観光客が立ち寄る場所にポスター掲示をすような工夫をすればいいと思う。

- ・ 道外客への対応など考慮すると、モデル事業を延長することは基本的に理解。
- ・ 道内を快適に旅行し、記憶に残るような仕掛けが大切。例えば、利用者から同意書を徴収するだけではなく、思い出に残る記念品などを渡すといった工夫ができないか。
- ・ 従業員の健康管理にも留意願いたい。

- ・ 道内企業は大変厳しい経営状況にあり、本道経済を少しでも活性化させる観点からも、GWを含めて5月も継続していただくことは大変ありがたい。
- ・ 札幌市の感染状況を注視いただき、個人や家族、域内といった制約を取り払った「どうみん割」の早期再開をお願いします。

- ・ 事業延長はよろしいと思う。
- ・ ちぐはぐな対策と捉えられないように、本事業は、観光振興だけを目的としているわけではなく、新しい旅のスタイルを定着させることに主眼があることを丁寧に伝えた方が良い。
- ・ 他の利用客への注意喚起についても、道が推進している「新しい旅のスタイル」定着のためであれば、施設側も声掛けしやすいのではないか。

- ・ 期間延長に異論はない。
- ・ 札幌以外の圏域については、圏域の制限をはずしてもいいと考えており、次回の延長を検討するときに考慮してほしい。
- ・ 札幌市内については、5月14日以降、往来制限が解除されたら、定員を制限するなど対策をとった上で対象とすべき。

- ・ 連休明けからは道内各地で高齢者等に対するワクチン接種が始まることから、道民の皆様には、これまで以上に感染対策に留意した行動を求める必要がある。
- ・ 「新しい旅のスタイル」の延長については、慎重に判断すべきと考える。

- ・ 観光業が大変厳しい状況であることは理解しており、札幌市を除くという条件であれば、5月の継続はやむを得ないと思う。

- ・ 取組の延長自体は問題ないと思う。
- ・ 4月に「新しい旅のスタイル」を利用した。宿泊施設の感染対策はしっかりしているが、家族連れなどは大声で話していた。ホテル側で注意できるとよい。

- ・ 北海道で注意しなければならないのは札幌市。札幌市内は感染を抑え込まなければならない。本事業は札幌市を除外しているので問題ない。
- ・ ワクチンが行き渡るまでの我慢である。

- ・ 4月と同様、圏域の範囲内の旅行に限定するのであれば異論はない。

- ・ この方針で了解する。

- ・ 大規模施設だけでなく、中小の施設においてもきちんとした感染防止対策がとれているのであれば問題ない。